

会員、ビジター各位

SAM 日本チャプター
大阪支部長 宇佐美照夫

2024 年度 SAM 大阪支部 12 月例会のご案内

月例会を下記の通り予定しております。是非ともご出席を賜りますよう よろしくお願ひ申し上げます。

◆日 時：2024 年 12 月 16 日（月）15:00 ～16:30

◆会 場：（学）産業能率大学 西日本事業部 会議室

大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 4 階（大阪メトロ 東梅田駅 徒歩 5 分）

◆講 師：Touson 自動車戦略研究所代表、自動車・環境技術戦略アナリスト、
工学博士 藤村 俊夫 様

1980 年にトヨタ自動車工業（現トヨタ自動車）入社。本社技術部にて 31 年間、新エンジンの開発推進、エンジンのシステム部品設計、パワートレイン戦略策定などに従事。2011 年に愛知工業大学に転出し、工学部機械学科教授として自動車工学関連の講義を担当。2018 年 4 月京都市へ転居と同時に同大学工学部客員教授となり、Touson 自動車戦略研究所を立ち上げ、自動車関連企業数社の顧問をはじめ、コンサルティング、執筆・講演活動を行う。著書に『EV シフトの危険な未来 2022 年 4 月発刊』、『カーボンニュートラルを実現する自動車・エネルギー産業のあるべき「経営・開発」2022 年 9 月発刊』（共に日経 BP）などがある。

◆テーマ：「EV シフトは幻想だった! 危うさをようやく認めた EV 信奉メーカー」

自動車業界では、CO2 削減の手段として「EV（電気自動車）シフト」が叫ばれ、中国をはじめとする各国の優遇措置により、販売は拡大してきました。但し、走行中に排出ガスが出ないという理由で、様々な課題に対する詳細な分析もなく、短絡的に EV を誘導することは愚策に他なりません。ここにきて、この指摘がようやく現実味を帯び、EV の販売は鈍化しています。

講演会では、EV は CO2 削減目標達成の一手段となり得ても、顧客に対し価格を含め多くの負担を強いる製品にほかならず、2030 年代までの最適解は HEV（ハイブリッド車）や PHEV（プラグインハイブリッド車）である理由を解説します。

◆会 費： 正会員 1,000 円 / ビジター 2,000 円

◆出欠の有無：2024 年 12 月 11 日（水）までに下記 事務局にご連絡をお願いします。

【事務局】大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル4階

学校法人 産業能率大学 総合研究所 SAM大阪事務局（代表：渡邊）

e-Mail：sanno-west@hj.sanno.ac.jp TEL：06-6315-0333

【FAX 専用】月例会 出欠通知

FAX：06-6315-0331

ご出席

ご欠席

氏名：_____